(3) 水のゾーンの基本目標

かがやく水、それは郷土の躍動感

基本目標

- 美しい水と流れの保全を図る
- 海、川、湖、湧水の水辺景観の保全と創造を図る
- 水に親しみ、水とのふれあいを促進する

県民の多くは、身の周りの環境を良くするためには、「川、池、海のきれいさ」、「水や水辺とのふれあい」といった水環境の整備が最も必要だと考えています。(昭和62年「望ましい環境に対する意識調査」より)

これは本県の水環境が豊かなものの、親水性や美しさに欠けている結果といえます。

したがって、透き通った水の輝きを守りあるいは回復し、海や湖の白い波、川の豊かな流れ、生物の息吹といった水ならではの良さを次の世代におくるため、水は共有財産だという意識を持ちながら、大切に守り、育て、いかしていくことが必要です。



三方五湖でのタタキ網漁（三方町）

■ 福井の海、川、湖の特徴

変化に富んだ越前若狭の海岸

本県の海岸は自然海岸が多いため、変化に富んだすばらしい景観を呈し、海水浴や釣り、ドライブなどのレクリエーションの場となっています。また、好漁場でもあり、日本海の幸は、地域の人々の生活の糧となっています。

県土をうるおす河川、湖

かっては、いくたびかの水害にみまわれましたが、治水に力が入れられたことから、近年では、河川の氾濫は少なくなってきています。川は、その豊富な水の流れ自体が貴重な資源ですが、そこに生息する野鳥や魚なども、自然の豊かさを感じさせてくれる資源です。

代表的な湖としては、三方五湖や北潟湖の自然湖、九頭竜湖などのダム湖があり、これらの美しい景観は、地域の人々や観光客に親しまれています。

しかし、三方五湖や北潟湖は、富栄養化が進行し、地域の人々が一体となった水質改善策が進められています。

身近な生活の場にある小川、水路等

本県は、気候特性や豊かな森林資源により、水資源に恵まれています。また、古くから大きな用排水路がつくられたことから、まちやむらには必ずといっていいほど小川が流れ、魚が勢いよく泳ぎ、子供たちの遊び場や学習の場となり、さらに野菜洗いや洗濯などを通して、人々のコミュニティ形成の場となっていました。

しかし、その多くは機能性や安全性が重視され、コンクリートなどによる改修が進み、魚や昆虫たちの生息の場は失われました。このため、人々は遠ざかり、単に水が流れる水路としての機能しかもたなくなっています。また、これらの水路の多くは生活雑排水、ゴミや空き缶などにより、水質と水辺景観の悪化が問題となっています。

■ 福井の水の課題

清らかな水の環境を守る

◆ 本県の海や河川の水質は、総じて清浄だと評価されています。この清浄な水を今後も維持し、次の世代に残していく必要があります。

◆ 本県の海や河川、湖等の自然の恵みは、地域の人々に生活へのうるおいだけでなく、こころのうるおいを与えてきました。このため機能性や安全性だけでなく、海や河川、湖等の自然性を十分認識した上で、大切に守り育て、いかしていく必要があります。

◆ ダムの建設にあたっては、治水、水資源涵養、景観保全、親水施設などについて、総合的な視点のもとに、周辺施設との調和を図る必要があります。

◆ 身近な生活の場にある小川や水路の多くは、味気なく、また汚れつつあります。今あるきれいな小川は大切に守り、また汚れた小川、水路は、きれいな水が流れ、また生物がよみがえるよう努力していく必要があります。

水とふれあい、水に学ぶ

◆ 海や河川については、海浜公園、河川敷公園、自然遊歩道、サイクリングロードなどを、自然とのふれあい、自然の営みを学ぶ場として活用していく必要があります。

◆ 身近な生活の場にある小川や水路は、水と遊び、人と語りあう場として活用していく必要があります。

◆ 水は、すべての人々、すべての生物の共有財産だという意識をもつことが大切です。